現場で実践活動・桑名市議会議員　伊藤研司の発言＆活動報告

住所:桑名市上野松の下 89-7　事務所(留守電)TEL・FAX:23-4136　　携帯 090-3831-0434

命輝け！子どもの声が響く桑名市へ！

まちづくり拠点施設・中央公民館の空き時間帯を
子ども食堂・寺子屋塾…児童館的役割の施設

《伊藤研司議員・発言の主旨》

桑名市を含む日本では、経済的支援が必要な児童・生徒の割合は、7～10人に一人おられます。

【気まぐれ八百屋だんだん】
こども食堂には、こども連れのお母さん、一人で立ち寄る男性や家族連れの方々もおられる。
「だんだん」は食を手助けし、勉強を習う寺子屋にも、おとなのカルチャーにも、カフェにもなる。

このような時代だからこそ、東京・大田区の近藤博子氏が名付け親と言われている「子ども食堂」の運営が全国的に広がっています。

当初の「子ども食堂」は、経済的に支援が必要な児童向けだったようですが、最近では、地域づくりのため…即ち、子どもを中心として、地域の若者や子育てを終えた方々が、ボランティアとして活動され、それが地域の活性化・賑わいにつながっているようです。

少子化の影響からか…地域で子ども達の声を聞くことが少なくなってしまっている時代だからこそ、子どもを中心とした施策の必要性を感じています。

⇓

《地域コミュニティ局長・答弁の主旨》

一つのキーワードとして、「食と子どもで地域がつながる」取り組みが、まちづくり協議会の取り組みとして重要な要素になってくるのでは、と思っています。現実に、そのような取り組みが始まっている「まちづくり拠点施設」もあります。

子育て・教育は、オンリーワンで！　自己肯定を高める教育を！

《伊藤研司議員・発言の主旨》

ユニセフからの記事ですが、医学の進歩もあり、日本は世界で最も乳児死亡率が、0.9と低い国とのことです。

しかし、一方では、早稲田大学社会科学教授・卯月盛夫氏は「子どもの力がまちを変える」とのテーマの中で「日本は、先進諸国ではロシアに次ぐ自殺率の高い国である。
特に 14 歳～19 歳の死因の一位は「不慮の事故」、二位は「自殺」、さらに 20 歳～24 歳の死因の一位は自殺である。

いじめを苦にした小・中学生の自殺やブラック企業における若者の過労死は、近頃マスコミでも取り上げられている。

私たちは、このような自殺の問題は、個人の問題と考えて、社会全体の問題として対応していないのではないか…？！

一つ一つは小さな問題かも知れないが、それが複合化された時、実は最も社会的な弱者である子ども達にそのしわ寄せが集中する。…。以上の報告もあります。

学校・家庭でのしつけ・教育の中で、自己を肯定的に捉えることが必要であると思っています。

しかし、現場の先生方は、報道にもあるように非常に忙しく教師の数も少なく、激務の中での教育実践の日々だと思っています。

そのような状況下で、子ども達の自己肯定力を付ける実践活動は難しい課題でもあると認識していますが、オンリーワンの人生を歩むことが出来るため・生き抜く力を付けるため、また青少年の自殺を減少させるためにも、学校教育は非常に重要だと認識しています。

⇓

《教育長・答弁の主旨》

私自身も、日本の子ども達が外国の子ども達に比べて、自己評価が低いということには、極めて気がかりな問題と受け止めています。

自己肯定感を高めることについては、①一人一人の子ども達が、他人（ひと）の為に役に立っているのだという実感を持つこと、②他人（ひと）から認められている、という思いを持つこと…この二つが重要なことだと思っています。

確かに、日本人気質というのがあって、少し控えめにというところがあると思うのですが、その中で感じるのは、学校・地域・家庭で褒められる機会が少ない…逆に、失敗をとがめられる…虐待の例などは、最たる事例ですが、そのような傾向が強いのでは…と危惧しています。

「学校では間違えること…教室内では間違えること」をキャッチフレーズに取り組んでいますが、具体的な例では、「ムリ」とか「どうせ」という言葉がまん延していた…虚無感があるような発言が多いという現実がありましたので、教師の方々と一緒になって、「肯定的な言葉⇔ぽかぽか言葉」を学校全体に溢れさせよとの取り組みをしています。

その過程で、非常にイライラしていた子どもが、友達から「ありがとう…助けてもらって嬉しかった…」という言葉をかけてもらうことによって、ある時、失敗した子に「ドンマイ」という言葉を言ったのです。

ドンとマインドですから…気にしないで…ということなのです。この言葉が非常に勇気づけられる言葉になった…学級に「ドンマイ」という言葉が広がっていった…それぞれが、大切にしなくてはならない「自分も大切　あなたも大切」そのような思いが広がっていったという現実がありました。

やはり、「言葉かけ」が大切になると思っています。

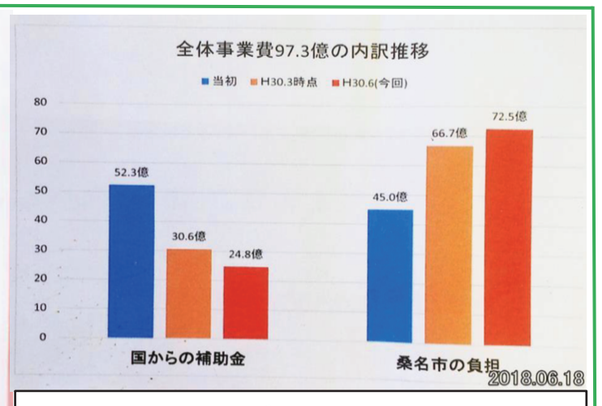
家庭・地域社会ででも広げて頂きたい…「ありがとう」という言葉が、一番心に響くと思っています。

大型公共事業〔桑名駅自由通路〕×教育・福祉・環境

桑名市の経常収支比率⇒99.2（類似団体は、88～90前後）
少なく・限られたお金は、次世代を担う子ども達に使うべき！

《伊藤研司議員・発言の主旨》

桑名駅東西を結ぶ「自由通路」のイメージ図と全体事業費97.3 億円 の事業費の内訳推移をグラフで説明。



本議会で説明したグラフを直接掲載しました。

桑名駅東西を結ぶ「自由通路建設費」は、最初は総工費 67 億数千万円との話を聞いていたのですが、いつの間にか、総工費 97 億 3 千万円となってし

まった経緯もあります。

総事業費:97 億3千万円の内訳↓

平成29年度の議会⇒国費は52億3千万円、合併特例債を含む桑名市負担分は45億円（地方債・借金は42億6千万円、一般財源は2億4千万円）

平成30年1月23日の全員協議会⇒国費は30億6千万円、合併特例債を含む桑名市負担分は66億7千万円（地方債・借金は47億3千万円、一般財源は19億4千万円）

平成30年度の6月議会⇒国費は24億8千万円、合併特例債を含む桑名市負担分は72億5千万円（地方債・借金は52億7千万円、一般財源は19億8千万円）

以上ように、一年間で合併特例債を含む桑名市負担分は27億5千万円も増えたのです。

工事が始まって後で、2度にわたる後出しジャンケンでの増額は、市民目線・感情としたら許されることではありません。

しかし一方では、市民生活に直結する事業・施策⇒駐輪場の廃止・縮小、中学校教師用パソコンはゼロ予算、小学校教室のエアコンもゼロ予算、また、まちづくり拠点施設のリノベーション(新な施設への改修)費用もゼロ予算…。

保育士→正規職員(再任用職員を含む)は125人　臨時職員は133人　常勤嘱託職員は25名

保健師→正規職員(再任用職員を含む)は24人　臨時職員は4人

乳幼児虐待事件をゼロに近づけ、虐待死事件をゼロの日を続けるため…見守り体制の充実…保育現場の充実のためにも保健師・保育士の増員を望むのです。

⇓

《桑名市長・答弁の主旨》

私・伊藤研司が提言し、子育て環境充実のために地区市民センター・公民館（当時）で開催された講座。
↑写真は文章とは直接的には関係ありません。　撮影・伊藤研司

桑名市総合計画で掲げる7つのビジョンのうち「子どもを3人育てられるまち」を私は推進しており、今年4月に未来局を新設しました。子ども医療費の窓口無料化については、平成31年9月からの実施に向け準備しています。

まちが成長を続けるための施設整備を伴うハード面での投資、また、将来を担う子ども達への投資、将来の桑名市とためにはいづれも重要な投資であると考えています。

なお、先ほどご指摘がありました桑名駅自由通路の整備事業では、補助率が下がったことは私も認めますが、その分、内示率については非常に高い内示を頂いた、と考えています。そういった意味で、国からの国庫補助金については、ある程度満足のできる交付金を国から頂いたと考えています。

《伊藤研司議員・再発言の主旨》

高度経済成長の時代ならばある意味納得もできますが、しかし、平成28年度の桑名市の経常収支比率は99.2です（類似団体は約88～90）。　納得できません。

〖私・伊藤研司の駅周辺事業への考え〗

①桑名駅西区画整理事業は、元々はJR・近鉄の高架事業と一体の事業でした。
私は、鉄道事業者が鉄道の高架事業を中止した時、「区画整理事業の中止を決断し、道路と公園のみの事業に縮小すべき！」と提言しました。

②パルが解体された後は、「公園用地＋屋台村」にすべきとの考えを、当時の担当スタッフと議論・要望していました。
しかし、当時は私の構想に賛同するスタッフ・議員はいませんでした。
今、振り返ると、①区画整理事業を廃止し、道路＋公園事業に縮小しておれば、地域内の方の自宅も法規制の網がかからず改築もできますし、100 億円位？は事業費の削減が出来きたのではないか…？！と思っています。
②パルビル解体の跡地を公園〔公園＋屋台村＋バーベキュー〕にしておれば、金太郎飴のような街づくりではなく、オンリーワンの街づくりが出来ていたのではないか…？！とも考えています。

※桑名駅東西を結ぶ「自由通路」建設費問題で、全議員の内、反対の発言をしたのは、私が属する会派「まちづくり戦略室」の二人だけでした。

※2018 年 6 月議会現在、小学校各教室への「空調設備・エアコン」設置は、ゼロ予算でした。来年も猛暑・酷暑日が来ないとは限りません。要望し続けています！

通学路安全のため「ゾーン３０」の取り組みを！

《伊藤研司議員・発言の主旨》

近年、児童・生徒の通学路安全確保のため、我が国で「ゾーン30」の取り組みが活発化しています。

三重県で最初の「ゾーン30」の実施が、桑名市の精義学区で始まり、大山田の南

写真上→青木記念病院と接するR1歩道に描かれた「ゾーン30」
写真下→益世小学校児童の通学路:三ツ矢橋交差点。　横断歩道の印は消えている。
このような歩道は市内に多く見られる。

【ゾーン30】
私は交通事故から、児童・生徒の命を守るためにも、通学路を中心に、桑名市一帯に「ゾーン30」の取り組みが必要と提言。

小学校区では昨年に実施…そして、城南小学校区では昨年度から自治会役員・民生児童委員・学校関係者・行政関係者の方々を中心として、取り組みが活発化しています。

警察庁の統計でも、2011年～2015年に整備された2.490か所の一年間の人身事故の調査では、整備前は5.414件　整備後では4.144件と23.5％減少。
死亡・重傷事故は、整備前は373件　整備後では273件と26.8％減少
死亡事故だけに限定すると、整備前は18件　整備後では11件と大幅に減少。
桑名市としての「ゾーン30」への取り組みは？！

⇓

《地域コミュニティ局長・答弁の主旨》

研司議員からは、子ども達の通学路の安全を確保するために、地域が一丸となった「ゾーン30」の設定への取り組みを提言して頂くとともに、地域における具体的な課題を取り上げて協議を進めている事例の情報共有を図り、合意形成の場としての活用も含め、まちづくり拠点施設の活性化を図るべきとのご意見も頂いています。

地域の方々と情報を共有して、進めて行きます。

私・伊藤研司は、これまでにも本議会でパネルを使って、児童・生徒の通学路の安全対策について、発言していると共に、担当所管のスタッフと日々、議論を重ね続けています。

※2016年5月、保育園に通う5歳児が交通事故に遭い死亡する事件が起きてしまいました。　私は、特にその事件以降、通学路の安全確保のため「ゾーン30」設置についても言及しています。

夏休み期間中の学童保育の現状は…？！

大山田地区市民センター、七和・城南まちづくり拠点施設で行われている「子育てキッズ」。　この事業が軌道に乗って以降、「虐待死亡事件」は発生していません。「子育てキッズ」の成功が、「ぽかぽか」での活動につながっています
2006年から、私が本議会を含め日々、何度も提言し、2010年(H22)から実施に至りました。撮影・伊藤研司　大山田地区市民センター

《伊藤研司・発言の主旨》

＊今年夏季の募集・応募人数？
＊昨年までの取り組みの検証、事業者を含め、今年度の取り組みの考え方？

⇓

《子ども未来局長・答弁の主旨》

今年度・夏休み期間中の学童保育所の状況は、「くわなメディアライブ、桑名福祉センター（在良）、大成学童保育所」の三か所です。
申し込み世帯数・児童数は、桑名メディアライブ→65 世帯・76 名、桑名福祉センター→45 世帯・55 名、大成学童保育所→14 世帯・16 名となり、全体で 124 世帯・147 名の申し込みを頂き、昨年度の申し込み者と比較して 29 名増加しており夏休み期間中の学童保育のニーズの高さを感じています。

長良川河口堰×“ヤマトしじみ”の生息状況

今後の“ヤマトしじみ”生息状況改善への施策は？

写真上⇒長良川浚渫前。旧マウンド付近。1996 年
写真下⇒河口堰・浚渫の影響でほぼ全滅。2018 年

《伊藤研司・発言の主旨》

「桑名市まち・ひと・しごと創生総合戦略」平成 27 年 11 月桑名市発行のP17 には貝の漁獲高⇒水産業の振興、特にハマグリ・シジミなどの貝類の漁獲拡大と水産資源保護の両立を図ります、と記載されています。　平成 26 年度の現状→912トン
平成 31 年の目標値→1.200 トンと記載されています。

来年が平成 31 年になりますが、

具体的にどの様な施策を行い、今後、行おうとしているのか…？！

⇓

《産業振興部長・答弁の主旨》

現状ですが、シジミの漁獲量は平成 23 年以降、減少続けていましたが、平成 29 年はわずかに増加しています。
木曽川下流事務所が発注した「平成 29 年度木曽川下流部魚介類生息環境調査検討業務」による「管内シジミ調査結果」による、「稚貝調査結果」によりますと、揖斐・長良川では多くの①稚貝が確認されたところもあるとのことでしたので、漁獲量も引き続き右肩上がりになることを期待しています。

こういった中、研司議員ご指摘の通り関係機関や漁業関係者、研究者などが何度もシジミの生息調査をしていますが、自然界のことは人智の計り知れぬところが多きく、決定的な原因究明には至っていないのが実情です。

※私たち「しじみプロジェクト・桑名」が行っている調査では、長良川河口堰上流域では、ヤマトしじみの漁獲は限りなくゼロに近く、下流域では多くの場合、河川の両端の砂地での生息が確認されているだけで、中央部での漁はできません。
①稚貝から漁ができるまで「ヤマトしじみ」が成長できるかどうか？が問題です。

「…。親と生き別れて泣き叫ぶ子ども、頭を抱え込む老人…日米両軍による地上戦の戦火は住民を巻き込み、多くの命を奪った。生き残った者へも深いつめ跡を残した。」と説明にあります。

子どもは、家族・地域・日本…世界の宝。子ども達を悲惨で残酷な戦場に送らないことは、私たち大人の責務です！

大山田野田地区に現れた30頭近いサルの群れ。玉ねぎを食べている

廃止・縮小になった益生駅駐輪場の移転先を巡って、馬道自転車保管所を駐輪場にと日々議論。

※中央公民館の今後⇒2019 年 4 月から、社会教育法から地方自治法に基づく運営になります。サークルの先行予約は現行通り＋バザー等の収益事業＋全ての市民の方々の使用が可能になります。